

## 第9章 施設配置の検討

### 第1節 整備方針

#### 1-1 基本的な考え方

施設整備の基本目標である「安全で安心」及び「地域や自然との調和」を踏まえ、最新設備の導入による安全な施設整備や地域住民とのリスクコミュニケーションの実施など地域住民の方々が安心できるような体制づくりはもとより、周辺環境に影響を与えない処分場を造ることを基本的な考え方とする。

#### 1-2 基本的な考え方の展開

上述の基本的な考え方の実現にむけての具体的方針を以下のように設定する。

##### 1) セイムウェイト方式による分散配置

施設配置の基本型とされるワンセンターシステム方式（主施設を中心に関連施設が枝分かれする方式）とセイムウェイト方式（施設それぞれが独立した存在として分散・ネットワークする方式）のうち、巨大建築物による違和感などを避けるねらいから、施設を分散して配置するセイムウェイト方式により周辺景観へ配慮し、地域の環境との調和を図る。

##### 2) 地域の生態系との関係

施設の整備にあたっては造成による地形などの改変を出来る限り抑え、植生や水系等の自然環境要素との関係を図ることによって、地域生態系への負荷の軽減を図る。

##### 3) 自然型地形による融和

敷地内には緩やかな起伏を設け、園内景観にリズムとアクセントを与えるとともに周辺景観との融和を図る。

### 1-3 配置計画

配置計画の検討は、12haの規模で、長方形(150×800m)と六角形(一辺:約220m・対角線:約430m)の仮定の敷地形状で具体の計画案の検討を行う。

#### 1) 計画案A(長方形案)

中央に粗大ごみ処理施設、両端に埋立地及び、リサイクルセンター・環境学習推進施設・管理棟を分散的に配置し、その間に展望の丘、森林浴の森、フラワーガーデン、調整池等を配置する。施設間は曲線を基調とする園路で結び、園路沿いは四季折々の花が楽しめる配植とする。

#### 2) 計画案B(六角形案)

中央に柔らかな起伏の展望の丘を配置し、ここを中心として粗大ごみ処理施設と埋立地及び、リサイクルセンター・環境学習推進施設を三方に分散的に配置する。森林浴の森、フラワーガーデン、調整池等はこれらの中に配置し、施設間はA案と同様に曲線を基調とする園路で結び、園路沿いは四季折々の花が楽しめる配植とする。

1-4 施設概要

配置計画における園地施設の概要は、次のとおりとする。

施設名	概要
多目的広場	処分場主催の定期的イベントや家族連れ、グループ等のピクニック、軽スポーツなど、多目的な利用に供する広場で、クッション性のある土系の舗装とし、パーゴラ・ベンチ等の休憩施設を造る。
水辺ビオトープ	調整池の上流側に湿地状の水辺ビオトープを設け、直接水に入り水生生物の観察、水上デッキを巡らせて環境学習の場とする。また、水田を設けるなど、体験の場を造る。
森林浴の森	コナラやクヌギなどの森を形成し、里山の雑木林を再現するとともに、フィトンチッド効果(精神が落ち着き、リラックスしてくる)に浴する森林浴の場としても活用できるものとする。
フラワーガーデン	広い敷地特性を活かしてスケールの大きな花風景を造る。
調整池	常時水面が確保できる調整池を設け、景観的な豊かさとともに野鳥の棲息空間として活用する。
憩いの広場	シンボリックな広場を敷地の中央付近に設け、花の彩りや水の演出を添える。
野外活動センター	バーベキュー、キャンプ、天体観測等の体験を通して、自然の美しさや厳しさに触れて、自然の中の植物、動物、天体等々について学ぶ。
アスレチックの森	雑木林の林相の中に木製のアスレチック施設を連続的に配置し、遊びながらの健康スポーツができる空間とする。
展望の丘	敷地の中央付近になだらかな起伏の丘を設け、処分場を近景として周囲の山なみを望む眺望ポイントとする。

## 第2節 整備イメージ

整備イメージは、図9-2-1～図9-2-4に示すとおりである。



図 9-2-1 整備イメージ(長方形案①)



図 9-2-2 整備イメージ(長方形案②)



図 9-2-3 整備イメージ(六角形案①)



図 9-2-3 整備イメージ(六角形案②)